

## 京田辺市行政改革推進委員会（第1回） 議事録（要旨）

会議名	第1回京田辺市行政改革推進委員会
日時	令和5年5月25日（木）午後3時15分～午後4時40分
場所	京田辺市庁舎3階 305会議室
内容	<p><b>【議事録】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開 会</li> <li>2 市長あいさつ</li> <li>3 委嘱状交付</li> <li>4 会長・副会長の選出</li> <li>5 会長あいさつ</li> <li>6 諮問</li> <li>7 「(仮称)京田辺市行政改革大綱」について             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)「(仮称)京田辺市行政改革大綱」及び実行計画策定方針について</li> <li>(2)今後のスケジュールについて</li> <li>(3)これまでの行政改革の取組みについて</li> </ol> </li> <li>8 開 会</li> <li>9 副市長あいさつ</li> </ol>
出席者	委員 野田委員、青木（二）委員、青木（和）委員、寺西委員、大崎委員、日下委員 市側 上村市長、辻村副市長、事務局（企画政策部長、総務部長等）
傍聴者	なし

### ●議事要旨

- (1)「(仮称)京田辺市行政改革大綱」及び実行計画策定方針について
- (2)今後のスケジュールについて
- (3)これまでの行政改革の取組みについて

配付資料に基づき、事務局から説明

【質疑応答】

(委員)

資料6のうち、京田辺市新行政改革プランで未完了となっている6項目は例えばどのようなものか

(事務局)

受益者負担の見直しに係る取組みが多い。料金や手数料等の値上げ検討を行ったが至らなかったものがあつた。これらは、市民の負担と財政的な影響を踏まえて値上げは行わないという判断になつたものもある。

(委員)

「行革大綱」6ページ以降3本の柱があり、そこにそれぞれの取組みが紐付いているが、こうしたことを検討していくのか？

(事務局)

3本の柱とそれぞれの取組について、各委員さんのご意見をお伺いしたい。特に、市民や民間事業者とのパートナーシップの構築などについて、様々な知見やご経験をお伝えいただきたい。

(会長)

中で書かれていることは古いものもある。柱立ての順番やキーワードが変わるということも含めて、事務局案が提示されると思われるので、それに意見していく。

(委員)

基本的な話として、そもそも財政の適正化ということで支出を減らしたい思いがあるのかどうか？数字が全く出てないのでわからない部分がある。前提が分からないので、どういう立ち位置でどういう提言をしていけばいいかご教示いただきたい。また、例えばこういうことをやって、どのぐらいの効果があつたかを何となくわかるように教えていただきたい。

(事務局)

次回の会議の際には、市の財政状況をきちんとお示しさせていただいた上で、将来的な収支の見通しをお示しさせていただく。

(委員)

目指すべきゴールが財政的な部分なのかそれとも複数の評価基準があつて、そこに向

けた取り組みを評価することになるのか、そのあたりのゴール設定は？

(事務局)

最終向かうべきゴールに関するご質問ですが、行革の定義として資料1の1ページに記載しているが「厳しい財政状況の中においても、しっかりとした行政サービスを提供するために行政改革に取り組むと考えている。行政、財政が持続可能で、市民の方々が困ることのないように取り組んでいく、そのための財政的な基盤が必要である。

(委員)

むつかしい事だと思うが、財政は数字でわかるものだが、京田辺市としてどこを目指すのかという部分をこういった会議で議論できればと思う。わたしも行政のこういった委員会に関わっていく中で、具体化がむつかしい中でも一定の数値化をしていくこともあった。「緑豊か」とか「健康」とかを一定の形にできるといいと思う。

(会長)

施策レベルで指標や目標値があるわけではないので、最終的なアウトカムとの関係は明瞭にはならないが、できる限り明瞭になるように改善する方向で、皆さんからも積極的にご意見を出してもらいたい。

(委員)

国ではデジタル化を推進されていて、私はやはり行政をデジタル化していくことで改革による効果や実績は示しやすいと思われる。また、京田辺市ではカーボンニュートラルに向けた宣言がされているが、具体的なアクションを起こさないといけない。目指す都市像に「緑豊かな」と掲げているのであれば、いち早く取り組んでいくべきだ。

(事務局)

DXについては、まさに行革そのもので非常に親和性が高いと思っている。今回の大綱においても柱になる部分であり、事業としても具体的にあげていきたい。ゼロカーボンについては市内でもなかなか進んでいない現状にあるが、今後市民の方にも目に見える形でゼロカーボンに本気で取り組んでいく必要がある。

(副会長)

先ほどから言われているように、数字は非常に大事だと思う。財政のことも京田辺の事だけではなく、近隣の市町でどんな状況にあるのかといったことも見せてもらえたらと思う。

(会長)

近隣との比較については、主要な財政指標における比較などは可能か？個別の事業においては関連して実施されている事業などがわかれば、その都度お伝えいただきたい。

(委員)

国が子育て支援で集中的にやっ払いこうという議論をしていると思うが、市町村レベルでの子育て支援も色々考えられるが、京田辺市は子育て世代が流入している一方で、将来的な人口減少も見据えなければならない。子育て世代の流入のため、子どもを3人いても住みやすいような施策を打ち出せば、人口の減少にも歯止めがかかるのではないかと思う。当然財政的な支援は行政の負担になるわけで、そうした財源をねん出するための見直す部分と、維持する部分を仕分けしていくことで、必要な政策にお金を集中的に投下できるのではないか。

(事務局)

民間の経営と同様に、限られた資源をどこに投入するかが重要であり、まちづくりプランと連動して考えていかなければならない。

(委員)

これまで地域の中で生活してきたので、地域の事情もお話しできるのかなと思う。生活者としていかに関わっていけるかを考えていきたい。

(会長)

普段の生活、活動の中での率直な思いは非常に重要であり、そうしたことをお伝えいただきたい。